資料No.3

日　時：令和8年10月23日(金)14時30分～16時
場　所：佐賀市文化交流プラザ　エスプラッツ3階ホール

＜報告事項＞

第1回審議会での各委員からの御意見とその対応

佐賀県
http://www.pref.saga.lg.jp/

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
（認定NPO）佐賀県難病支援ネットワーク理事長	・避難先に指定されている避難所が地震対策や災害対策をしっかり整備している避難所なのか等、実効性のある避難所運営が必要	・避難所運営及び個別避難計画における実行性の確保に向けた取組については、テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映
三原委員	・個別避難計画について、避難先や避難誘導など、実行性が担保されているかを確認すること	
	・人材不足や高齢化を踏まえ、地域の担い手の確保・継続のため、報酬のあり方についても検討が必要	・報酬のあり方など、処遇改善については、各福祉分野の個別計画で対応

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県議会	・福祉人材の確保・定着に向け、処遇改善を推進すべき	・処遇改善については、各福祉分野の個別計画で対応
武藤委員	・福岡県への人材流出も踏まえた福祉人材確保対策が必要	・福祉人材の確保については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映及び各福祉分野の個別計画で対応

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
（公社）佐賀県社会福祉士会 会長 大垣内委員	【孤独・孤立】 ・孤独・孤立への対応は福祉分野にとどまらず、地域全体で取り組む必要がある ・個人情報保護に配慮しつつ、支援が必要な方を適切な支援につなげる取組を継続すべき 【人材確保】 ・高齢者福祉や障害者福祉を支える人材の確保を引き続き進める必要がある ・将来を見据え、福祉人材の確保・育成について一層取り組むべき	【孤独・孤立】 ・テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映 【人材確保】 ・福祉人材の確保については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映及び各福祉分野の個別計画で対応

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
（公財）佐賀未来創造基金 代表理事	・CSOとの協働を個別の取組ではなく、計画全体を通じた横断的な視点として位置付けるべき	・CSOの取組は、地域福祉全体に関わるものであり、計画全体を通じて、CSOとの連携について言及
山田委員	・DWATとCSOの連携を一層推進するとともに、用語は現行の「DWAT」に統一すべき	・DWATとCSOとの連携については、テーマ1「地域を支える人づくり」、テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映。用語はDWATで統一
	・重層的支援体制整備事業の成果指標については、制度改正や社会情勢の変化を踏まえ柔軟に見直すことが重要	・地域福祉支援計画は、市町の地域福祉の推進を支援するものであるため、県の計画段階では成果指標を設定しない方向で検討
	・孤独・孤立対策を包括的支援体制の一環として位置付け、制度との連動を図るべき	・孤独・孤立対策については、テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映
	・CSOとの協働を進めるため、人材育成や連携体制など実効性のある仕組みづくりが必要	・地域の担い手の育成については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映 実効性ある仕組みについては、例えばテーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」①「孤独・孤立対策の推進」におけるCSOとの連携などで対応

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県地域共生ステーション連絡会代表世話人 江口委員	・人手不足が進む中、行政や専門職だけでなく、住民主体の支え合い活動を地域福祉の重要な担い手として位置付ける必要 ・地域課題や生活支援ニーズに対応するため、住民が主体的に参画できる環境づくりや働きかけを強化すべき ・住民主体の取組や好事例を把握・共有し、県として積極的に後押ししていくことが重要 ・人手不足や物価高騰等の状況を踏まえ、地域共生ステーションをはじめとする地域活動を継続できるよう支援の充実が必要	・テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」③（地域共生ステーションの取組）に反映

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県PTA連合会 母親副委員長	・地域や家族とのつながりの希薄化により、行政や支援機関の役割が今後さらに重要	・テーマ1「地域を支える人づくり」及びテーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映
馬場委員	・人手不足が進む中でも、困った時に頼れる相談・支援体制の充実が必要	
	・福祉人材の確保に向け、SNSを活用した若い世代への効果的な情報発信が重要	・情報発信の仕方については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映及び各福祉分野の個別計画と連携

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
日本労働組合総連合会 佐賀県連合会（女性委員会） 連合佐賀女性委員会 幹事 大坪委員	・大規模災害に備え、避難先や物資提供などに関する関係機関との連携・協定の充実が必要 ・トイレや入浴など被災者の生活環境に配慮した避難生活支援の充実が重要 ・宿泊施設や温泉施設等と連携し、被災者が安心して過ごせる環境整備を進めるべき ・誰もが安心して暮らせる地域づくりに向け、災害時の福祉的支援体制を強化する必要がある	・テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県ボランティア連絡協議会 会長 小林委員	・災害時の福祉的支援の充実とあわせて、県民の自助意識の醸成を図ることが重要 ・公助への過度な依存を避け、「自助」を基本とした災害への備えを推進すべき ・県民一人ひとりが日頃から災害に備える意識や取組を促進する視点を計画に盛り込むべき	・テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県里親会会長 小谷委員	・家庭や家族のつながりを大切にし、結婚や子育てに希望を持てる社会づくりを進めるべき ・少子化対策を検討する上で、婚姻件数や離婚件数の推移などの現状を把握・分析すべき	・結婚・妊娠・出産・子育て支援については、各福祉分野の個別計画（佐賀県こども計画）にて対応
	・地域のつながりの強化が、子どもの健全育成や地域社会の活性化につながる	・地域のつながりの強化は、テーマ1「地域を支える人づくり」及びテーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映
	・困難を抱える人への支援や地域での支え合い、奉仕活動を推進すべき	・困難を抱える人への支援や地域での支え合いの推進については、テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映
	・行政への参画、法令遵守、地域活動への参加など、県民一人ひとりが社会を支える意識を持つことが重要	・行政への参画や地域活動への参加など、県民一人ひとりが地域社会を支える意識の醸成については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映
	・教育、道徳、治安、福祉などの地域課題について、住民と行政が協働して取り組むべき	・教育など、福祉に関連する分野との連携については、テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」（法改正事項）に反映 ・住民と行政との協働については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映及びCSOとの連携・協働による地域課題解決の推進として計画全体を通じて反映

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県地域婦人連絡協議会 会長	・人口減少や高齢化、つながりの希薄化などの課題は、既に地域で顕在化 ・人と人とのつながりを維持・強化するため、顔の見える関係づくりを進めることが重要	・つながりの希薄化や顔の見える関係づくりは、テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」①「孤独・孤立対策の推進」に反映
山口委員	・地域活動の担い手不足により、従来の支え合い活動の継続が難しくなっており、担い手への支援が必要 ・世代間の意識の違いも踏まえながら、地域のつながりを次世代へ引き継いでいく必要	・担い手への支援については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映

©2026 Saga Prefecture

第1回社会福祉審議会（R8.8.20） 御意見とその対応

発言者	御意見	対応
（一財）佐賀県佐賀県老人クラブ連合会 上峰町老人クラブ女性部長	・公民館を交流・居場所づくりの拠点として活用することが有効	・交流・居場所づくりの拠点については、テーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映
田中委員	・地域活動を支えるリーダー人材を育成し、地域福祉の担い手強化と生活圏の実態に合わせた地域福祉活動の広域化を推進することが重要	・地域活動を支えるリーダー人材の育成については、テーマ1「地域を支える人づくり」に反映 　例えば、主任民生委員・児童委員やつながりサポーター講師をはじめとする地域福祉の担い手の育成・活動支援や広域的な交流研修の実施等

©2026 Saga Prefecture

第1回審議会以前の審議会（R7.9.8）での御意見とその対応

発言者	御意見	対応
（公社）佐賀県社会福祉士会 会長 大垣内委員	・福祉避難所の開設基準や支援体制について、平時から具体的に定めておくことが重要 ・大規模災害に備え、役割分担の明確化や事前準備を進めるべき	・テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映
（公財）佐賀未来創造基金 代表理事 山田委員	・CSO、NPO等の用語・表記の統一 ・担い手育成・人づくりを強化し、孤独・孤立対策とも連携して進めるべき ・個別避難計画の実効性確保と、県計画の市町への展開を推進すべき	・計画全体を通して反映 ・次期計画Ver. 7では、「地域を支える人づくり」をテーマ1に掲げて地域を支える担い手の育成に取り組む 孤独・孤立対策との連携についてテーマ1①「つながりサポーター養成」と連携して取り組んでいく ・テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映

©2026 Saga Prefecture

第1回審議会以前の審議会（R7.9.8）での御意見とその対応

発言者	御意見	対応
佐賀県地域共生ステーション連絡会 代表世話人 江口委員	・地域共生社会の実現には、住民参加の拡大と担い手の育成が不可欠 ・住民主体の居場所づくりや生活支援を推進するため、（重層的支援体制整備事業や個別避難計画作成に取り組む）市町数だけでなく、活動の実態が見える指標設定を検討してほしい	・テーマ1「地域を支える人づくり」及びテーマ2「安心して暮らせる仕組みづくり」に反映 ・地域福祉支援計画は、市町の地域福祉の推進を支援するものであるため、県の計画段階では成果指標を設定しない方向で検討
佐賀県社会福祉協議会 副会長 久保山委員	・災害救助法改正の内容を次期計画に反映し、災害時の福祉的支援の強化を図るべき	・テーマ3「災害時のきめ細やかな備えづくり」に反映

©2026 Saga Prefecture